



学力調査結果

全国学力・学習状況調査 (令和5年4月 6年生実施)

今年度始まってすぐの4月18日(火)に6年生が実施しました。

国語と算数の2教科の実施でしたが、全国トップレベルの秋田県の平均正答率と比較しても本校の6年生は国語・算数ともに上回っておりました。算数では、全国平均正答率よりも10%以上上回ることができました。

	国語	算数
秋田県との比較	やや上回る	上回る
全国との比較	上回る	大きく上回る

質問紙調査(学習への取り組み方や生活の様子)では、本校の課題である自己肯定感に対する回答を含め、多くの設問で肯定的回答(当てはまる、どちらかといえば当てはまるの合計)の割合が高く、大きな課題は認められませんでした。ただし、肯定的な回答の割合が高いとは言え、全国・秋田県よりも「当てはまる」が少なく、「どちらかといえば当てはまる」が多い傾向にあること、全体的に家庭学習の時間や読書の時間が少ないこと、英語の使用について消極的な子どもが多いことなどは課題と言えます。

※裏面に、由利本荘市教育委員会てまとめた結果概要を載せましたので、併せてご覧ください。

秋田県学習状況調査 (令和5年12月 4～6年生実施)

12月6日(水)に4年生以上で実施しました。下記は、秋田県の平均正答率との比較です。多くの教科で県平均を上回りました。しかし、学年によって、また、問題によって、それぞれの学年で個別の課題が見つかっておりますので、年度内での回復を図ります。

学年	国語	算数	理科	社会
4年	やや下回る	下回る	下回る	
5年	同程度	やや上回る	上回る	やや上回る
6年	大きく上回る	やや上回る	大きく上回る	上回る

質問紙調査では、全体として肯定的な回答の割合が高く、秋田県の平均とも同程度であったため、特筆すべき課題は認められませんでした。しかし、その中で、4年生の学習意欲と家庭学習の時間、6年生の自己肯定感に関する設問は、肯定的な回答の割合が若干低く、今後改善に向けての取組が必要と言えます。

令和5年度 本市の全国学力・学習状況調査結果

1 調査の概要

本調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、学習指導の改善を図る目的で、平成19年度から実施されています。全国の小学6年生と中学3年生が対象で、今年度は令和5年4月18日（火）に実施されました。

2 調査の内容

調査内容は、小学校が国語と算数、中学校は国語と数学に加え、英語が実施され、学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題が出題されました。また、調査する学年の児童生徒を対象とした学習習慣や生活習慣等に関する児童生徒質問紙調査と、各学校の校長が回答する教育環境等に関する学校質問紙調査が実施されました。

3 秋田県と全国の比較（今年度も、県の平均正答率は整数値で発表されています）

〈小学6年 平均正答率(%)〉

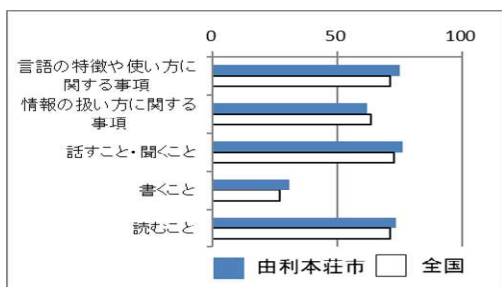
	国語	算数
秋田県	72	65
全国	67.2	62.5

〈中学3年 平均正答率(%)〉

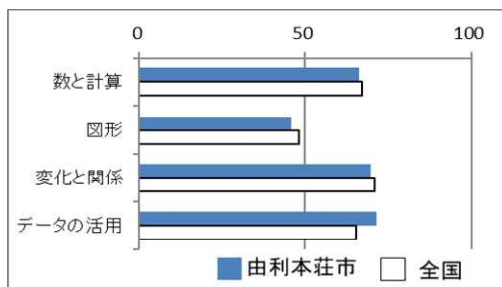
	国語	数学	英語
秋田県	74	52	44
全国	69.8	51.0	45.6

4 本市の結果について（授業改善に生かすため、領域ごとにグラフでの比較としています）

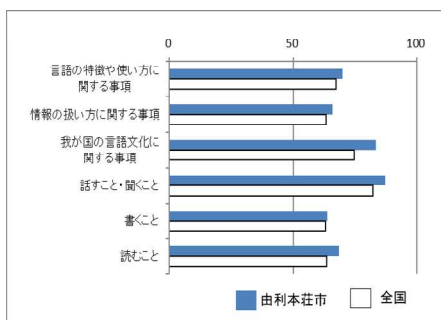
〈小学校国語〉



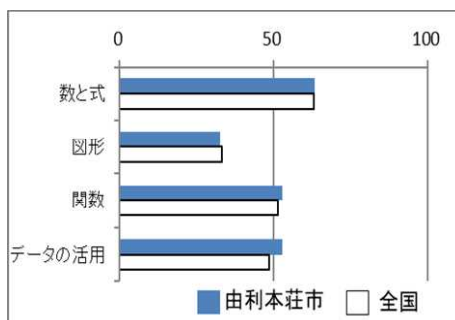
〈小学校算数〉



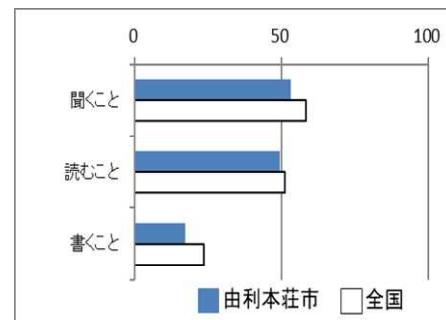
〈中学校国語〉



〈中学校数学〉



〈中学校英語〉



質問紙調査からは、小学校・中学校とも、将来の夢や目標をもち、自分自身を肯定的に捉えながら、学校に前向きに通っている児童生徒の割合が年々増加していることが分かりました。各学校における授業実践や先生方の関わり方が児童生徒によりよく反映されていること、保護者が温かく我が子に接していることが分かる結果となりました。その一方で、1日あたりの学習時間は減少傾向にあります。放課後や家庭における有益な時間の使い方について、さらに改善していく必要があると思われます。